

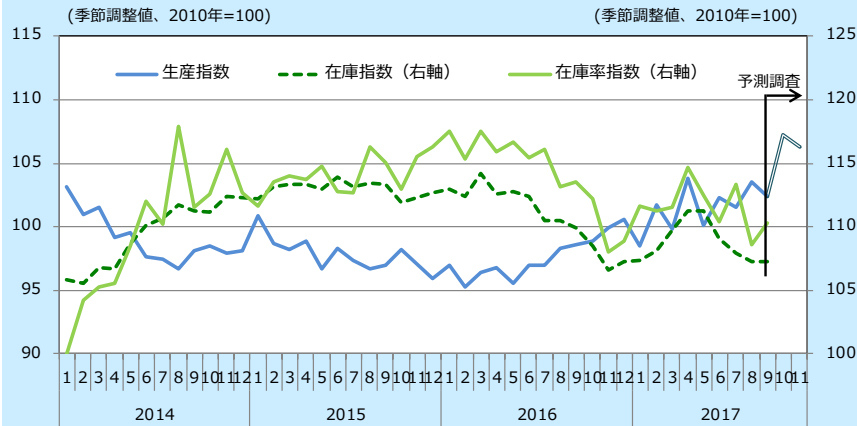
日本：鉱工業生産指数（2017年9月）

—生産指数は低下も回復局面は持続—

MRI Daily Economic Points

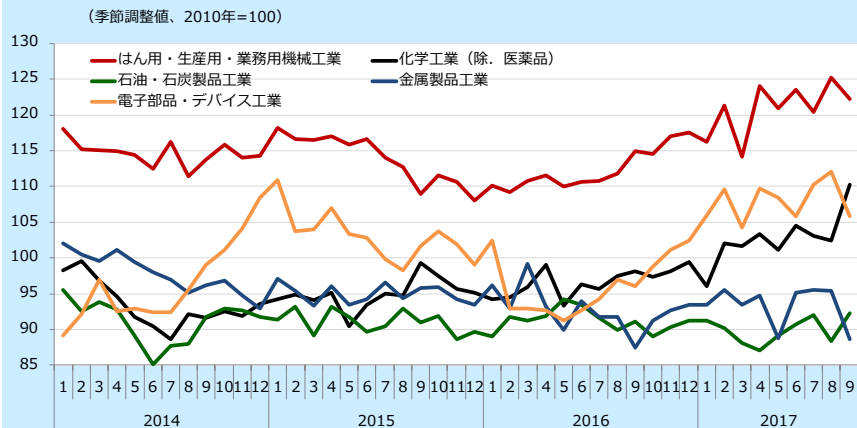
October 31, 2017

図表 鉱工業生産／在庫指数



出所：経済産業省「鉱工業指数」

図表 上昇・低下幅が大きい業種の生産指数



出所：経済産業省「鉱工業指数」

評価ポイント

2017年9月の結果

- 17年9月の鉱工業生産指数(季調済)は前月比▲1.1%と2ヶ月ぶりに低下したものの、均してみれば上昇基調を維持している。四半期ベースでは7-9月期は前期比+0.4%と6四半期連続の上昇となった。
- 業種別にみると、全15業種のうち9業種が前月比で低下している。低下幅が大きいのは、電子部品・デバイス工業(前月比▲5.6%)、はん用・生産用・業務用機械工業(同▲2.4%)、金属製品工業(同▲7.0%)等であった。電子部品・デバイス工業については、増加傾向にあった半導体関連の生産が減少しているが、全体で見れば上昇基調の中での振れ幅の範囲内に収まっていると考えられる。
- 一方、上昇した業種では化学工業(除.医薬品)(前月比+7.6%)、石油・石炭製品工業(同+4.4%)の寄与が大きい。化学工業については美容液等化粧品が同+13.9%と大きく上昇しており、訪日観光客向けの化粧品売上が好調なことも影響している可能性がある。
- 在庫指数は前月比0.0%で横這いであった。化学工業(除.医薬品)、輸送機械工業等で上昇、鉄鋼業等で低下した。
- 製造工業生産予測調査によると、10月の生産は前月比+4.7%と大幅に上昇する見込み(経済産業省による補正值は+2.4%程度)。ただし、現在問題となっている大手企業の製品検査段階における不正事案の影響等は反映されていない可能性に留意する必要がある。

基調判断と今後の流れ

- 生産は、業種による振れが見られるものの、全体としては16年半ば以降の回復局面が継続している。
- 今後も、堅調な世界経済を背景とした輸出の回復や、雇用・所得環境の改善に伴う内需の持ち直しにより、生産は持続的に回復すると予測する。ただし、世界の半導体市場の需給バランスの悪化、米国自動車販売の低迷、上述した不正事案の波及的影響等のリスク要因も注視していく必要がある。